

年報発刊にあたって

昨年は新型インフルエンザが全国的に流行し、京都府でも PCR 遺伝子検査に所をあげて対応いたしました。幸いにして弱毒性ウイルスであったために、大きな混乱も無く終着いたしました。唯、今後新たなインフルエンザ出現の可能性もあり、当研究所でも、昨年の経験を生かし、今後も発生動向を監視しながら、抗ウイルス薬剤耐性株の出現や変異するウイルスに対応できるよう検査に取り組んでおります。

今年の年報には細菌・ウイルスに関するものが10編、食品、農薬に関するものが2編、大気に関するものが2編、水質に関するものが2編と成っており、行政検査と共に調査研究を主体とするものであります。

当研究所は府民の生命を守る健康危機管理を第一義とする職場であり、種々の分析検査を行っており、そのレベルアップの為の調査研究を行っております。

その中では国立感染症研究所、国立環境研究所、他の地域の衛生研究所、環境研究所とも連携し共同研究も行っております。特に若い所員には研究志向の重要性を理解させるよう努めております。

今回の年報の内容をご覧になり、忌たんの無いご意見ご批評をいただきたいと思っております。幸い検査・研究機器も序々に整備されておりますので、行政検査及び調査研究のさらなる充実をはかり、府民の皆様の健康危機管理に一層努めたいと思っております。府民の皆様には当研究所の業務について理解いただき、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成 22 年 12 月

京都府保健環境研究所長 井 端 泰 彦